

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	42	学校名	可児工業高等学校
------	----	-----	----------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域の産業教育を担う可茂地域の工業高校として 地域や企業等と連携した専門性の高い実践的な学びを通して 地域の産業発展や活性化に貢献し、地域から愛される人材の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	教育活動のあらゆる場をととして、知・徳・体・技の調和のとれた地域社会から期待される人間性豊かな工業技術者を育成する。 (1) 基礎学力と専門的知識・技能の確実な定着 (2) 基本的な生活習慣の習得と豊かで逞しい心の育成 (3) 産業界の信頼に応える学力の保証と勤労観の育成 (4) 豊かな人間性や社会性の育成		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>工業技術者としての自覚を高め、基礎学力と専門的知識・技能の定着に基づいた職業観・勤労観を持った生徒</li> <li>地域社会から信頼され、新たな価値を生み出し、未来を拓く創造性あふれる生徒</li> <li>多様な人格を尊重し、豊かな心と健やかな身体を持った生徒</li> </ul>	
	生徒をどう 育てるか 【C P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職や進学に対応した柔軟な選択科目や習熟度に合わせた少人数授業を展開し、タブレット端末などを活用する生徒一人ひとりに寄り添う支援の推進</li> <li>専門的な知識や技術の習得、様々な資格取得のサポートをはじめ、インターンシップ・企業見学を通し、充実したキャリア教育・進路支援の実施</li> <li>地域社会と連携した学校行事、活発な部活動を通して、豊かな人間性や社会性の育成</li> </ul>	
	どんな生徒を 持っているか 【A P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくりに興味・関心を持ち、身につけた知識や技術を産業界で活かしたい生徒</li> <li>高校生活に明確な目標を持ち、学習をはじめ資格取得、部活動など学校生活に意欲的に取り組み、自ら成長しようとする生徒</li> <li>規範意識が高く、規則正しい学校生活ができる生徒</li> </ul>	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着を念頭に、ICT機器の積極的な活用や指導法の改善を促進し、全職員が生徒理解を図りながら連携して学習指導を行っていく。</li> <li>クラス活動や生徒会活動をととして他との関わりを一層学び、日常の学校生活を充実させるための自己指導能力を身に付ける。</li> <li>進路実現のための基礎学力と規範意識の定着。職業観と社会適応の育成。</li> <li>地域のイベント（専門性を活かしたワークショップ等）への参加対象生徒が減少傾向であることと、休業日開催が大半であることにより、継続ができなくなる恐れがある。</li> </ul>		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の活用環境を整備することで積極的な活用を促進し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力および自ら学ぶ意欲や態度を育成する。</li> <li>授業や学校行事を通して、工業技術者としての自覚を高め、基礎学力と専門的知識・技能の定着に基づいた職業観・就労観を育成する。</li> </ul>	
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる教育活動をととして生徒一人一人を正しく理解し、情報共有と共有理解のもと発達段階に合わせた生徒支援を行う。</li> <li>基本的な生活習慣を身に付け、集団生活をしていく上で必要な規範意識と協調性を高められるよう支援を行う。</li> </ul>	
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の社会的自立に向けて生徒の発達段階に応じたキャリア教育を推進し、学校行事や外部の教育力を活用した教育活動を通して、望ましい勤労観や職業観を形成する。</li> <li>産業界から信頼される豊かな人間性や社会性に富んだ人材を育成する。</li> </ul>	
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度、工業部組織として立ち上げた「安全教育推進事業委員会」を機能させ、全科をあげて安全に対する意識向上を図る。</li> <li>生徒への安全教育だけでなく、専門科教員（若年教員）への安全教育を含めたスキルアップの場を設ける。</li> </ul>	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	基礎的・基本的な知識・技能の習得	施策Ⅱ-8	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャレンジタイムの実施</li> <li>ICT活用環境の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年会と協力し、基礎力診断テストに向けたチャレンジタイムの企画運営を行った。</li> <li>生徒用タブレットの管理や貸出し、その他ICT機器の管理及び修繕対応、各種ソフトウェアやアプリの活用補助を実施した。</li> <li>夏季休業中に希望生徒5名がオーストラリア姉妹校を訪問し、姉妹校見学や文化体験を実施した。</li> <li>授業公開週間における職員間での授業参観及び意見交流、生徒対象の授業アンケートの実施等、授業改善に向けて取組んだ。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての取組みにおいて企画運営にあたり、各職員の協力のもと滞りなく実施することができた。</li> <li>新入生のタブレット活用に向けて、スタディサプリの導入など、次年度に向けて活用促進に向けて取組んだ。</li> <li>姉妹校交流について、様々な面でホームステイでの受け入れが難しいことなどから、次年度以降は持続可能な交流方法を検討していく必要がある。</li> </ul>	
	学習活動におけるICT機器のさらなる活用	施策Ⅱ-9	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した授業の実践・交流</li> </ul>				
	外国の言語・文化の理解	施策Ⅱ-11	<ul style="list-style-type: none"> <li>姉妹校との交流活動</li> </ul>				
	授業改善に向けた研修の充実	施策Ⅳ-26	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開週間の実施</li> <li>授業アンケートの実施</li> </ul>				
生徒指導	安定した生活を送るための基本的な生活習慣の定着	施策Ⅰ-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻、欠席者数の低減</li> <li>信頼感ある身だしなみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身なり指導についてルールに沿えない生徒がおり、継続的な指導が必要となっている。情報モラル教育については講話を実施し、SNSトラブル等は減少した。</li> <li>遅刻や欠席者数は昨年同様、基本的な生活習慣が確立できない生徒が増えている。同時に様々な悩みから登校に前向きになれない生徒への支援が必要となっている。</li> <li>交通安全については乗車用ヘルメット着用を推進し、ヘルメット着用運動に参加した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻、欠席の主な理由は、基本的な生活習慣が身に付いていないことであったり、学校生活や家庭生活における悩みや疲れなどであった。今後もスクールカウンセラーやスクール相談員へ気軽に相談できる体制づくりを推進する。</li> <li>人権教育やいじめ防止に向けた教育など、心の教育を推進する。</li> <li>自己指導能力や、社会における規範意識等を更に醸成するため、各種講話の充実を図る。</li> </ul>	
	集団生活する上で必要な自己指導能力の充実	施策Ⅰ-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権及び情報モラル教育</li> <li>合理的配慮の共通理解</li> </ul>				
	生徒理解を深めるための積極的な教育相談体制の充実	施策Ⅳ-21	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクール相談員、ほっとプレイスの積極的活用</li> </ul>				
	命の大切さや自己有用感を高める支援の充実	施策Ⅰ-7	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルメット着用の推進</li> <li>MSL、地域貢献活動</li> </ul>				
進路指導	外部講師を活用した進路ガイダンス等の充実	施策Ⅱ-14	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生の進路実現達成状況</li> <li>就職、進学活動への積極性</li> <li>インターンシップ実施企業等からの評価内容</li> <li>学校ホームページの充実</li> <li>進路希望別模試の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業や大学等担当者と生徒が直接話ができる進路ガイダンスを実施した。</li> <li>進路希望別模試を実施したが、予習復習等の事後指導が不足した。</li> <li>様々な業種においてインターンシップを実施した。また、今年度も建設工学科においては中長期インターンシップを実施することができた。</li> <li>すぐるで進路情報を配信したり、HPでの情報提供を実施した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生はほぼ全員が進路先を決定することができた。</li> <li>大学に合わせた個別学習への取り組みや、就職先に合わせた適切な指導がこれまで以上に必要になる。</li> <li>インターンシップ先からは、おおむね高評価をいただくことができた。</li> <li>進路希望調査の結果から、個別に生徒へ情報提供を実施した。</li> </ul>	
	主体的に進路を決定するための確かな学力の定着	施策Ⅱ-8					
	地域と連携したインターンシップ・企業見学の充実	施策Ⅱ-13					
	進路指導に関する適切な情報発信	施策Ⅳ-20					
安全管理	実習開始前の安全指導の改善	施策Ⅲ-19	<ul style="list-style-type: none"> <li>適度の緊張感と、安全意識の継続の必要性</li> <li>部顧問会議における安全指導規準の共有</li> <li>生徒の活動場所毎の体調確認と環境チェック</li> <li>各科毎に生徒・職員へのスキルアップ講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習開始時における、人員点呼、本時の実習内容や注意点等の確認、安全点検活動を実施した。</li> <li>生産系の専門部活動において、危険な作業を伴う場合は、必ず安全作業マニュアルに従った作業を徹底した。</li> <li>活動場所の整理整頓は勿論のこと、適切な換気や水分補給等に心がけた。</li> <li>危険を伴う設備の使用方法等についてのスキルアップ講座を、学科内で実施した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>工業高校の実習設備には危険を伴うものがあることを教員、生徒ともに常に意識することが最も重要であり、実習作業における安全管理マニュアル等を整備することである程度それを達成することができた。</li> <li>空調設備やスポットクーラーさえもない環境での実習は、熱中症の恐れが常にある。</li> <li>全ての専門科教員が、自分の所属する学科の中で実習設備を正しく、安全に使用することができるようなスキルアップに努めていきたい。</li> </ul>	
	専門部活動及び運動系部活動における安全意識の向上	施策Ⅳ-25					
	各種感染症及び熱中症への予防対策の継続	施策Ⅲ-18					
	産振設備の基本操作スキルの習得	施策Ⅱ-14					

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年3月5日

- 学習者用タブレットの活用促進に向けて新たにスタディサプリアを導入するため、オリエンテーションや説明会等を通して、生徒および職員が活用できるようにサポートしていく。また、他分掌等と連携することで、進路指導や資格取得など活用機会の拡大を図る。
- 交通安全について自転車通学者は乗車用ヘルメット着用を目指す。校則の見直しや、ルールの徹底を進め、生徒一人一人が安心して学校生活を送れるよう指導していく。遅刻、欠席の減少を目指し、基本的な生活習慣の改善も含めた取り組みを継続的に実践する。
- 企業や大学等担当者と生徒が直接対話できる進路説明会を充実することで、生徒の進路意識を高めていく。また、的確な進路希望別検査を実施し、生徒が希望する進路決定ができるように支援していく。
- 安全教育に関して、安全管理マニュアルの作成やヒヤリハットメモ等の準備を整えてきたが、来年度以降はそれら危機管理に関する情報を、いかにシンプルに迅速に共有するかが課題である。

学校関係者評価

実施日：令和8年1月16日

- 生徒を対象にした「学校満足度アンケート」を実施することで、教職員のみならず生徒の思いを学校改善に活かすことができていること、今後も継続していきるとよい。
- インターンシップや安全教育など地元企業と連携した各種取組みや外部講師を招いた進路ガイダンス、ICTを活用した求人情報の提供などを通して、手厚い進路指導がなされていることが窺える。今後も産学連携事業に積極的に取り組んでほしい。
- 地域で行われるワークショップやインスタグラムで学校の様子を確認すると、授業だけでは得られない教育の場が提供されていることが分かる。こういった情報を中学生にも発信し、入学者増加に繋がれるとよい。
- ヒヤリハットメモで情報共有する取組みは企業でも行われており、今後も積極的に推進していくべきであるが、メモの書式を工夫したり、その情報をオープンに共有するよりよい方法を検討していくべきである。
- 通学時のヘルメット着用について、積極的な声かけが行われている。今後は保護者への協力依頼を含め、生徒の安全安心な高校生活を実現するよう、これまで以上に働きかけてほしい。